

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000227		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム ひまわりの郷		
所在地	江別市上江別西町13-3		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000227&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

江別市で初めてのグループホームとして平成8年に開設しました。地域とのつながりや歴史を大切にしています。
医療法人の運営であることから万全の医療連携体制を整えています。訪問診療や訪問看護はもちろん緊急時の入院の体制もととのっており安心してホームでの生活が継続できるようサポートしています。
法人内外の研修の参加、認知症の理解を深めるための学習会など定期的に開催しスキルの向上を目指しています。
スプリンクラー、自動火災通報装置を設置し安全面での配慮を行なっています。
夏のバーベキューや新年会等の行事はご家族やボランティアの方と賑やかに交流する場を設けています。また、個別の外出や毎月の行事など季節の体感や昔からのならわしなど楽しんで頂く場をもうけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

江別市での初めてのグループホームとして公募に応じて開設した経緯から、行政との緊密な連携と支援の関係が築かれており、地域とのつながりや先駆的な取り組みの原点となっている。
運営主体が医療法人であることから、医療連携体制のもと、医師の定期および随時の往診、看護師の常駐、24時間の連絡体制により、いつでも的確な指示が得られるなど医療健康面では手厚い態勢が敷かれている。さらに重度化した場合の対応や看取りの受け入れ体制も医療との連携のもとで整備されている。
多数の高齢者福祉事業を運営する母体法人が主導する教育システムが充実しており、法人内の研修委員会が計画的な研修を実施し、医療機関の勉強会にも参加でき、事業所内での身近なテーマでの勉強会も毎月行われている。その他に、法人の責任者が定期的に事業所を巡回しての情報交換、法人内事業所が集まる事業所合同会議、調理スタッフ・管理者が集まる献立会議など、複数の事業所が経験を交換し、知恵を出し合い、研鑽し合う体制が整っている。
スプリンクラー、自動火災通報装置が設置され、年2回、消防署が参加しての定期的防災訓練が実施されるほか、随時の通報訓練が行われ、周辺住民との協力関係も築かれて、災害への備えは万全を期して行われている。町内会との付き合い日常の近隣住民との交際など、地域によく溶け込んだ生活が築かれている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと共に考えた理念をかかげその目標達成のために全員で取り組んでいる	10項目の詳細な法人の倫理規定に加えて、より簡潔に、平易な表現で、グループホームにふさわしい内容を盛り込んだものとして、2項目のケア理念を職員参加のもとに作り上げた。年1回ミーティングで解説を行い、新人教育にも盛り込んで実践の場に浸透している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加を始め、普通の家庭と変わらないご近所付き合いをさせていただいている	町内会に加入して回覧板の連絡を受け盆踊りなどの行事に参加し、事業所の夏祭りへの住民招待、夏休みラジオ体操への参加などで活発に交流している。散歩の時の挨拶や公園での子供たちとの交流、畑の作物、お土産のプレゼントなど、地域に深く溶け込んでいる。	さらに幼稚園や小学校との付き合いにも手を広げ、利用者により楽しい時間を提供したいとの意向なので、その意欲的な取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の相談や、ご家族のサービス利用の相談、また手続きの方法など気楽に相談を受け対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の運営については勿論、防災時の避難の協力や避難訓練の参加など協力頂いている。二か月に一度定期的に開催している。	地域住民の関係者、地域包括支援センター、家族、本人などをメンバーとして、2ヶ月ごとに開催している。運営状況、評価の結果、防災対策などについて話し合っているが、率直に問題を投げかけることで活発な討論となり、有益な提案が得られ、有意義な会議になっている。	都合が付かないなどで家族の参加がほぼ2名にとどまっている。年間計画など長期の計画を提示し、家族が日程を確保しやすい条件を整えることで、参加を増やす努力を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	江別市担当者とは定期的に連絡をとり報告や相談を行なっている。また、包括支援センター担当者は運営推進会議に参加頂いている。	事業所から足しげく訪問することに加えて、江別市の行政姿勢、担当者の熱意がきわめて前向きで、多分野に亘る緊密な情報の提供、指導、アドバイスが得られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束をしないケアの取り組みを表示し、法人内の身体拘束廃止委員会とも連携を図り、身体拘束の無いホーム運営を行なっている。また、身体拘束に対する学習会にも参加している。	法人内に身体拘束廃止委員会が設置され、毎月検討会が開かれて、事例検討や、やむを得ず拘束する場合の審査などを行い、各事業所への指導を徹底している。個室にカギはなく、玄関は夜間以外施錠していない。不測の外出には見守りで対処し、出た時は付き添ったり後を追うことで安全を確保している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待については勿論であるが、特に言葉遣いや視線、身振りなどコミュニケーションについての指導に力を注いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにも後見人制度を利用している方も有り、その都度支援も行なっている。また、必要とみなされた場合はこちらからの説明も行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にはゆっくりと時間をとり説明を行っている。また、疑問な点に関しても理解していただけるよう対応している。入居後にも確認や説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時ご家族とは要望等をききとっていますが、その他に、ご意見箱の設置の他、定期のお便りに要望書を同封したりご家族へアンケートをお願いしたり意見や要望をくみ取る努力を行っています。	家族の遠慮やためらいの気持ちを理解した上で、来訪して面会の機会には丁寧に意向を聞き取る努力をし、また定期の家族向け便りに返信用紙を同封して意向を訊ねるなどの努力をしている。家族からは細かなことも含めて、率直な意見や要望が多数寄せられている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のスタッフミーティング、事業所訪問、事業所合同会議や献立会議などの機会を設けてスタッフからの意見の徴収また法人への要望や意見交換の時間をもうけている。	毎月のスタッフミーティング、毎朝の申し送りなどで職員の運営に関する意見を積極的に吸い上げ、法人責任者の来訪、法人内の事業所合同会議などの場で、上層部にも風通し良く職員の意見が届くシステムになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに対しては、新人研修、現任研修を行い、評価を行っています。またその評価に沿って待遇の改善など行っています。法人親睦会主催の職員旅行や忘年会など参加し法人内での交流も行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループホームで話し合い教育マニュアルを作成し、到達点の確認が行えるようにしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内のグループホームの交流会に参加したり、情報交換の場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけホームへお越しいただき入居者様との交流の時間を設けています、また、入居時はご家族の面会もお願いし無理なく生活できるように支援しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から不安をお聞きして対応を行っていますが入居後は細かな対応などについてご連絡し少しでも安心して頂けるように情報提供を行っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後しばらくはご本人の能力を判定する時間を作りその方に合ったサービスが提供できるように見守りをおこなっています。ケアプランについても修正が必要と感じた場合は随時行っています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆様からお知恵を拝借し共に生活する事を常に念頭においてケア提供しています。出来る事は無理なく行って頂くようお願いしています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事でも相談し一緒に考えて行く環境づくりを目指しています。こちらからの協力依頼に快く協力頂いています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の交流は勿論ですが、なじみの床屋さんに通ったり、お友達との交流、ご自宅にいらした頃からのマッサージの先生の来訪などそのまま継続しています。	昔からの馴染みの床屋の利用、古い囲碁仲間の来訪、マッサージ師の来訪など、馴染みの人とのつながりを絶やさない配慮をしている。ドライブなどで昔馴染みの場所の近くを通った時は傍まで行ってみるなどの心遣いをしている。	さらに本人が懐かしむようなところへの訪問を積極的に行っていきたいとの意向なので、その実現を期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志仲の良い方同志の外出やお散歩など楽しめる場面を提供し必要な場合は橋渡しをスタッフが行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も入院先の支援などご家族の相談を受けるのは勿論、お見舞いや、交流の時間を作っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとって今、一番必要なものは何かカンファレンスだけでなく日常の生活を通してユニットの区別なく情報交換を行っています。	利用者の思いや意向はカンファレンスや日常生活の中で各職員が感じたことを話し合い、認識を共有している。また、過去の経歴や元気だったころの情報をもとに、今の気持ちを推測する手掛かりとしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生育歴をご家族に記入していただいたり、入居後も聞き取りを重ねてサービス提供やケアに役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のこれまでの一日の日課を大切に、起床時間や就寝時間など特に定めていない。また定期的にバイタルチェックを行い健康状態の把握を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンス、申し送りなどの時間に話し合いを行い意見交換を行っている。出来るだけ実行に移し評価するように心がけている。	当該利用者の担当職員が、介護記録、日常の観察、医療等関連の情報をもとに、計画作成担当者の助言により計画原案を作成し、これをカンファレンスで検討し、再び計画作成担当者の助言のもとに完成し、家族および可能な限り本人の了解も得て実行計画としている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録紙などは定期的に見直しを行いニーズにあったものに変更している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他のグループホームやデイサービスとの交流や法人老健施設を利用しての運動会の開催や車両を借り入れての全体行事の運営など積極的に行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流やボランティアの訪問など外部との交流を密に行い社会とのつながりの継続を心がけている。ホームの買い物のお誘いなどお願いし一緒に行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、眼科、皮膚科、整形外科、精神科、歯科、耳鼻咽喉科などその方のかかりつけ医や状況を判断し受診の援助を行っている。	支障のない限り主治医は、よりの確な医療のために事業所の協力医に移行してもらおうが、本人、家族の希望があればそれに従う。協力医以外でも原則として受診には職員が同行するので、医師との情報交換は緊密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に4日勤務し、利用者の状態の把握、受診の介助、かかりつけ医との情報交換など一元的に行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人運営の診療所での入院の受け入れが整っている他、希望される医療機関への紹介も行っている。退居後の支援に関しても法人相談員と連携をとりご家族やご本人が不安なく過ごせるように支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針について入居時に説明同意を得ているが、そのようなケースが発生した場合は再度説明を行い支援して行く。マニュアルについても整備している。	重度化および終末期の看取りの対応については、入居時に指針の説明および同意書の交換が行われている。現実に事態が進行した場合は改めて、繰り返し相談・確認を重ねる。医療との連携および看護師の常駐体制のもと、看取り介護を引き受ける体制が整えられている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の手順書を整備し、スタッフにも指導している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	江別市消防より指導を頂き避難場所の確認など行っている。また、ホーム内の緊急連絡網を整備し定期的に訓練を行っています。	年間2回、消防署の立会・指導のもとに、日中および夜間の火災を想定した防災訓練を実施している。近隣の住民による協力体制もできており、訓練には数名の住民も参加する。その他の自主訓練も法人の指導で行われており、避難場所の確保もできている。	水害対策については市の説明を待っているとのことであるが、さらに地震への備え、非常時備品に不足がないかどうかの検討、緊急連絡網に近隣住民も組み入れることの検討、などを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームのコンプライアンスに沿って日々の適切な対応が行えるように指導している。	「全国認知症グループホーム協会」が作成した指針を全職員に配布し、毎月の会議で学んでいる。具体的な例を上げて、利用者の誇りを傷付けていないかを確認している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り要望をお聞きする場面を設けているが、意見をくみ取る事が難しい方については選択肢を設けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを守る事を理念として取り組んでいます。出来る限り希望に添えるよう努めています。がこれからもさらに改善して行きたいと考えています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時はおしゃれをしてお出かけしたり、希望される方には訪問理美容の提供をして髪型などその方の希望をお聞きして対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の皆さんの能力に合わせて食事作りや後片付けのお手伝いをお願いしています。また、誕生会にはお好きなメニューを用意したり外食時もお好きな物をゆっくり選んでいただけるようにしています。	毎月実施している法人事業所合同の献立会議で、利用者の好みや調理方法を法人の管理栄養士とも話し合い、献立に取り入れてもらっている。利用者と一緒に作った漬物や農園から収穫した野菜類を添えることもある。野菜を切ったり、盛り付けや食事の後片付けなど、利用者の能力を活かしながら職員と一緒にいき、食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士と献立会議を行い利用者の皆様の嗜好に合わせた献立作りを行っている。また、肉が苦手な方に魚料理を提供する等考慮よしている。飲み物に関してもお好きな物を用意して出来る限り水分を摂っていただけるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔には十分に注意を払いその方の能力に合わせた支援を行っている。必要な方については歯科衛生士による口腔ケアも行っている。また、歯ブラシやコップなどの消毒も定期的に行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の能力に合わせて日中と夜間で使用する衛生用品を変えるなどしている。また出来るだけ衛生用品を使用せずに生活出来るよう支援している。	個人の生活記録に排泄の時間を記録してパターンを把握している。衛生用品を使用している時も、日中だけでも定時の誘導で外すようにしている。一人ひとりの特性を把握しながら、排泄の自立に向けて対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理方法の工夫やオリゴ・ヨーグルトの提供に加えて水分量をチェックして水分摂取の管理も行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者お一人お一人の時間としてゆっくりと入浴して頂いている。髭そりをしてたり、お好みのシャンプーを使われたり入浴剤などで楽しみながら時間を演出している。	日曜日を除き入浴が可能な態勢をとっており、入浴は午後3時ごろから実施している。希望に応じて1日おきに入る利用者もいるが、基本的には週2回の入浴を支援している。時間を取って、楽しみながらゆっくり入れるように対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて日中に短時間の静養時間を設けたり、就寝に関しても時間に幅をもたせてその方に合った睡眠時間を提供している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルやチェックリストを作成して誤薬事故の無いよう細心の注意を払っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒータイムやくつろぎの時間などお好きな飲み物を提供したり、ボランティアの方に協力して頂き裁縫やゲーム、囲碁、将棋など楽しめる時間をつくったり一緒に歌を歌うなどその方に合った対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>全員の外出行事の他に身体能力で分けたグループ外出や仲良しの方とスタッフの個別外出などの時間を提供している。</p>	<p>散歩コースを決め、暖かい時期には毎日のように散歩し、公園に遊びに来ている子供との会話を楽しんでいる。歩行が可能な利用者と車椅子対応の利用者とに分けて、自由に散策が楽しめるように工夫している。買い物、ドライブ、外食などに出かけ、遠出の季節の行事のほか、冬場も週に1~2回はドライブや買い物に出かけている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される方にはお小遣いを持って頂き買い物の時など使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や家族との連絡などは希望されれば電話をお掛けしたり面会をお願いするなど支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースは明るく清潔な環境が保てるように清掃や環境整備を業務に組み込み、また利用者の皆さんと掃除の時間をもうけて一緒に行っている。</p>	<p>共用空間は日当たりが良く、浴室、洗面台、トイレなどの導線に工夫が見られる。壁には利用者と一緒に作った干支の貼絵、折り紙作品の飾りや行事の写真が貼ってあり、家庭的な雰囲気作りがなされている。温・湿度計を設置し、加湿器などで調整されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホームは広い空間ではありませんがソファやお天気の良い日は外にデッキチェアを用意するなど工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は以前から使用していた家具を持ち込んで頂いたり写真を飾るなどその方らしい居室作りを心がけている。</p>	<p>居室内は整頓されており、畳敷きの居室もあり落ち着いた雰囲気である。馴染みの家具類や仏壇、小物、縫いぐるみなどが持ち込まれ、壁には趣味の作品、ボランティアの訪問で一緒に作った折り紙の作品、家族の写真などで飾り、その人らしい過ごしやすい環境になっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内に手摺を施しトイレ、浴室など安全に使用できるように工夫している。エレベーターを設置し二階への移動を可能にしている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000227		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム ひまわりの郷		
所在地	江別市上江別西町13-3		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ぬくぬくユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000227&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと共に考えた理念をかかげその目標達成のために全員で取り組んでいる		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加を始め、普通の家庭と変わらないご近所づきあいをさせていただいている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の相談や、ご家族のサービス利用の相談、また手続きの方法など気楽に相談を受け対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の運営については勿論、防災時の避難の協力や避難訓練の参加など協力頂いている。二か月に一度定期的開催している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	江別市担当者とは定期的に連絡をとり報告や相談を行なっている。また、包括支援センター担当者は運営推進会議に参加頂いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束をしないケアの取り組みを表示し、法人内の身体拘束廃止委員会とも連携を図り、身体拘束の無いホーム運営を行なっている。また、身体拘束に対する学習会にも参加している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待については勿論であるが、特に言葉遣いや視線、身振りなどコミュニケーションについての指導に力を注いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットに保佐人を利用している方も有り、その都度支援も行なっている。また、必要とみなされた場合はこちらからの説明も行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にはゆっくりと時間をとり説明を行っている。また、疑問な点に関しても理解していただけるよう対応している。入居後にも確認や説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時ご家族とは要望等をききとっていますが、その他に、ご意見箱の設置の他、定期的お便りに要望書を同封したりご家族へアンケートをお願いしたり意見や要望をくみ取る努力を行っています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のスタッフミーティング、事業所訪問、事業所合同会議や献立会議などの機会を設けてスタッフからの意見の徴収また法人への要望や意見交換の時間をもうけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに対しては、新人研修、現任研修を行い、評価を行っています。またその評価に沿って待遇の改善など行っています。法人親睦会主催の職員旅行や忘年会など参加し法人内での交流も行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループホームで話し合い教育マニュアルを作成し、到達点の確認が行えるようにしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内のグループホームの交流会に参加したり、情報交換の場を設けています。また、他のホームに入居されているご家族の面会をホーム同志で調整して実現するなど行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に出来るだけホームへお越しいただき入居者様との交流の時間を設けています、また、入居時はご家族の面会もお願いし無理なく生活できるように支援しています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談の時点から不安をお聞きして対応を行っていますが入居後は細かな対応などについてご連絡し少しでも安心して頂けるように情報提供を行っています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居後しばらくはご本人の能力を判定する時間を作りその方に合ったサービスが提供できるように見守りをおこなっています。ケアプランに関しても修正が必要と感じた場合は随時行っています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の皆様からお知恵を拝借し共に生活する事を常に念頭においてケア提供しています。出来る事は無理なく行って頂くようお願いしています。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>小さな事でも相談し一緒に考えて行く環境づくりを目指しています。こちらからの協力依頼に快く協力頂いています。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の交流は勿論ですが、なじみの床屋さんに通ったり、以前から知り合いの囲碁仲間と囲碁を楽しまれたりしています。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同志仲の良い方同志の外出やお散歩など楽しめる場面を提供し必要な場合は橋渡しをスタッフが行っています。また、どうしても馴染めない時や不安定な時は個別の対応をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も入院先の支援などご家族の相談を受けるのは勿論、お見舞いや、交流の時間を作っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとって今、一番必要なものは何かカンファレンスだけでなく日常生活を通してユニットの区別なく情報交換を行っています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生育歴をご家族に記入していただいたり、入居後も聞き取りを重ねてサービス提供やケアに役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のこれまでの一日の日課を大切に、起床時間や就寝時間など特に定めていない。また定期的にバイタルチェックを行い健康状態の把握を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンス、申し送りなどの時間に話し合いを行い意見交換を行っている。出来るだけ実行に移し評価するように心がけている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録紙などは定期的に見直しを行いニーズに合ったものに変更している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他のグループホームやデイサービスとの交流や法人老健施設を利用した運動会の開催や車両を借り入れたの全体行事の運営など積極的に行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流やボランティアの訪問など外部との交流を密に行い社会とのつながりの継続を心がけている。ホームの買い物のお供などお願いし一緒にしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、眼科、皮膚科、整形外科、精神科、歯科、耳鼻咽喉科などその方のかかりつけ医や状況を判断し受診の援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に4日勤務し、利用者の状態の把握、受診の介助、かかりつけ医との情報交換など一元的に行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人運営の診療所での入院の受け入れが整っている他、希望される医療機関への紹介も行っている。退居後の支援に関しても法人相談員と連携をとりご家族やご本人が不安なく過ごせるように支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針について入居時に説明同意を得ているが、そのようなケースが発生した場合は再度説明を行い支援して行く。マニュアルについても整備している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の手順書を整備し、スタッフにも指導している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	江別市消防より指導を頂き避難場所の確認など行っている。また、ホーム内の緊急連絡網を整備し定期的に訓練を行っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームのコンプライアンスに沿って日々の適切な対応が行えるように指導している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り要望をお聞きする場面を設けているが、意見をくみ取る事が難しい方については選択肢を設けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを守る事を理念として取り組んでいます。出来る限り希望に添えるよう努めています。がこれからもさらに改善して行きたいと考えています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時はおしゃれをしてお出かけしたり、希望される方には訪問理美容の提供をして髪型などその方の希望をお聞きして対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の皆さんの能力に合わせて食事作りや後片付けのお手伝いをお願いしています。また、誕生会にはお好きなメニューを用意したり外食時もお好きな物をゆっくり選んでいただけるようにしています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士と献立会議を行い利用者の皆様の嗜好に合わせた献立作りを行っている。また、肉が苦手な方に魚料理を提供する等考慮している。飲み物に関してもお好きな物を用意して出来る限り水分を摂っていただけるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔には十分に注意を払いその方の能力に合わせた支援を行っている。必要な方については歯科衛生士による口腔ケアも行っている。また、歯ブラシやコップなどの消毒も定期的を実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の能力に合わせて日中と夜間で使用する衛生用品を変えるなどしている。また出来るだけ衛生用品を使用せずに生活出来るよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理方法の工夫やオリゴ・ヨーグルトの提供に加えて水分量をチェックして水分摂取の管理も行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者お一人お一人の時間としてゆっくりと入浴して頂いている。髭そりをして離お好みのシャンプーを使われたり入浴剤などで楽しみな時間を演出している。また入浴を好まない方について清拭や着替えの支援を行っています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて日中に短時間の静養時間を設けたり、就寝に関しても時間に幅をもたせてその方に合った睡眠時間を提供している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルやチェックリストを作成して誤薬事故の無いよう細心の注意を払っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒータイムやくつろぎの時間菜とお好きな飲み物を提供したり、ボランティアの方に協力して頂き裁縫やゲーム、囲碁、将棋など楽しめる時間をつくったり一緒に歌を歌うなどその方に合った対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>全員の外出行事の他に身体能力で分けたグループ外出や仲良しの方とスタッフの個別外出などの時間を提供している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される方にはお小遣いを持って頂き買い物の時など使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や家族との連絡などは希望されれば電話をお掛けしたり面会をお願いするなど支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースは明るく清潔な環境が保てるように清掃や環境整備を業務に組み込み、また利用者の皆さんと掃除の時間をもうけている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホームは広い空間ではありませんがソファやお天気の良い日は外にデッキチェアを用意するなど工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は以前から使用していた家具を持ち込んで頂いたり写真を飾るなどその方らしい居室作りを心がけている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内に手摺を施しトイレ、浴室など安全に使用できるように工夫している。エレベーターを設置し二階の方も階段を使わずに移動できるようにしている。</p>		

目標達成計画

事業所名グループホームひまわりの郷 ぬくぬく

作成日：平成 23年 2月 4日

市町村受理日：平成 23年 2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会に参加し事業所の夏祭りの住民の招待や散歩時の公園での子供たちとの交流や地域住民からの畑の作物、お土産のプレゼントなど地域に溶け込んでいるが、さらに地域の幼稚園や小学校の児童との交流の場を設け利用者様により楽しい時間を提供したい。	近隣の幼稚園、小学校などを訪問しお遊戯会の観覧や運動会の観覧など何か交流の場をもうける事が出来ないか相談して行く。また先生方にグループホームの理解を深めて頂き協力をお願いする。	運営推進会議にて提案し地域の方の意見をお聞きする。近隣の幼稚園、保育園を訪問し交流の機会が持てないか相談する。冬季の交流は移動を考え難しい事から四月開始へ向けて準備を行う。	6か月
2	4	運営推進会議は2ヶ月に一回開催しているが、ご家族の参加が各ユニットで二名程度と少ないことから今後は参加者を増やしていきたい	運営推進会議に参加されるご家族を増やしご家族とともに学びご家族の意見や提案をホームの運営に反映していきたい。	運営推進会議の年間スケジュールを事前に発表しご家族が事前に予定を立てやすいようにする。リハビリ体操や疾病、緊急の対応など法人より講師を招き一緒に学習する場とする等ご家族に関心を持って頂けるような推進会議になるよう努める。	1年
3	20	入居以前の生活を大切にして馴染みの方との交流を続けていますが、昔馴染みの場所を訪問したり、ご本人がお会いしたい方との交流の援助などさらに進めていきたい。	ご本人が普通われた小学校や、神社、馴染みの場所や自宅などご本人の意向を反映した外出の計画などさらに質を高め楽しみな時間を提供したい。	ご本人やご家族へ馴染みの場所の訪問を提案し行ってみたい場所など有れば訪問を検討し可能な場合は企画し実行する。また困難な場合は当時の様子がわかる写真や資料と一緒に見たりお話をするなど回想の場面等をつくり思い出を共有する時間作る。	1年
4	35	火災に対してはスプリンクラーや自動通報システムの設置、年2回の避難訓練の実施など行っているが、地震などに対する防災対策が不十分な面が見られる。今後は緊急避難用品の準備や避難場所の確保などさらに対策を考え安心して生活していただけるよう備えを充実する。	衛生用品、医薬品、防災用品などを持ち出せるよう準備し日頃の訓練にも備品の管理を盛り込んでゆく。防火訓練に合わせて緊急時の連絡体制、避難場所の協力など近隣住民との連携をさらに強め安全を確保するよう努める。	法人の協力をお願いし、備品の購入、家具の固定など順次行う。運営推進会議を活用し緊急連絡網への参入や緊急時避難者の保護などの協力体制を整えていく。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

目標達成計画

事業所名グループホームひまわりの郷 ほかほか

作成日：平成 23年 2月 4日

市町村受理日：平成 23年 2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会に参加し事業所の夏祭りの住民の招待や散歩時の公園での子供たちとの交流や地域住民からの畑の作物、お土産のプレゼントなど地域に溶け込んでいるが、さらに地域の幼稚園や小学校の児童との交流の場を設け利用者様により楽しい時間を提供したい。	近隣の幼稚園、小学校などを訪問しお遊戯会の観覧や運動会の観覧など何か交流の場をもうける事が出来ないか相談して行く。また先生方にグループホームの理解を深めて頂き協力をお願いする。	運営推進会議にて提案し地域の方の意見をお聞きする。近隣の幼稚園、保育園を訪問し交流の機会が持てないか相談する。冬季の交流は移動を考え難しい事から四月開始へ向けて準備を行う。	6か月
2	4	運営推進会議は2ヶ月に一回開催しているが、ご家族の参加が各ユニットで二名程度と少ないことから今後は参加者を増やしていきたい	運営推進会議に参加されるご家族を増やしご家族とともに学びご家族の意見や提案をホームの運営に反映していきたい。	運営推進会議の年間スケジュールを事前に発表しご家族が事前に予定を立てやすいようにする。リハビリ体操や疾病、緊急の対応など法人より講師を招き一緒に学習する場とする等ご家族に関心を持って頂けるような推進会議になるよう努める。	1年
3	20	入居以前の生活を大切にして馴染みの方との交流を続けていますが、昔馴染みの場所を訪問したり、ご本人がお会いしたい方との交流の援助などさらに進めていきたい。	ご本人が普通われた小学校や、神社、馴染みの場所や自宅などご本人の意向を反映した外出の計画などさらに質を高め楽しみな時間を提供したい。	ご本人やご家族へ馴染みの場所の訪問を提案し行ってみたい場所など有れば企画し実施する。日頃会う事の出来ないご家族との面会や訪問などを行って行く。ご家族の協力を得て墓参り外泊、外出などの機会を増やしご家族との交流も深めていく。	1年
4	35	火災に対してはスプリンクラーや自動通報システムの設置、年2回の避難訓練の実施など行っているが、地震などに対する防災対策が不十分な面が見られる。今後は緊急避難用品の準備や避難場所の確保などさらに対策を考え安心して生活していただけるよう備えを充実する。	衛生用品、医薬品、防災用品などを持ち出せるよう準備し日頃の訓練にも備品の管理を盛り込んでゆく。防火訓練に合わせて緊急時の連絡体制、避難場所の協力など近隣住民との連携をさらに強め安全を確保するよう努める。	法人に協力をお願いし、備品の購入、家具の固定など順次行う。運営推進会議を活用し緊急連絡網への参入や緊急時避難者の保護などの協力体制を整えて行く。二階という事も有り避難露の確保や訓練シミュレーション等を日常的におこなっていく。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。